

平成21年度

教育指導の計画

(年度末反省)

大阪市立南高等学校

1. 学校教育目標

- ① 特色ある専門学科(国語科・英語科)の充実
- ② 国際交流の推進
- ③ 大学進学を柱とした進路指導

2. 重点目標

専門学科の特性を生かし、豊かな教育活動を通じて、生徒一人一人の個性を伸ばし、生きる力の基礎基本を強化充実させる。

3. 評価項目の達成状況

評価項目	達成状況		評価の理由
	中間評価 (10月)	総合評価 (3月)	
① 学校経営の重点	B	A	学習・日々の生活習慣・進路への取り組み等の面で一定の成果を上げた。
② 学習指導の重点	A	A	基礎学力の定着、英検や漢検の資格取得、四大受験学力の育成等の面で一定の成果を上げた。
③ 生活指導の重点	B	B	校則や遅刻の指導については概ね成果が得られた。引き続き指導を続けたい。
④ 保健管理・指導の重点	B	B	個々の生徒の体調管理について、更にアドバイスを徹底したい。
⑤ 研修の重点	B	A	更に成果が上がるよう創意工夫を重ねたい。
⑥ 国際交流教育の重点	B	A	新型インフルエンザの影響もあったが、創意工夫と熱意で、例年通りしっかり国際交流教育ができた。
⑦ 進路指導の重点	B	A	個々の生徒の力をしっかり伸ばすことができ、大いに成果があった。
⑧ 図書視聴覚教育の重点	B	A	図書館の活用度は高く、充実していた。視聴覚教育も充実し、HPの更新は予定以上となった。
⑨ 特別活動の重点	B	B	生徒会活動として更に地域との連携に努め、国際交流も推進させたい。

4. 次年度への改善点

真の実力に繋がる学習習慣の取得、日常生活習慣の確立と質の向上、プラス思考で積極的に生きようとする態度の育成等、人生を歩む上で高校時代に身につけさせるべき基本的考え方や所作を更に丁寧に根気よく指導する。

(1) 学校経営の重点

目 標 : 国際性豊かで、人権感覚に溢れた人格の形成を目指し、自発的に学習する態度を育成し、社会に積極的に貢献しようとする姿勢を伸長する。

取組内容(指標)	達成状況	
	中間評価 (10月)	総合評価 (3月)
① 1時間1時間の授業を大切に行い、教育内容の再確認と再構築に努める。	B	A
② 国際交流を積極的に推進し、国際感覚を育成する。	B	A
③ 正しい人権感覚を育成する。	B	A
④ 地域や中学校との連携を深め、相互理解に努める。	B	B
⑤ 高大連携を推進し、将来に渡って積極的に社会に貢献しようとする意識と態度を助成する。	A	A
結果と分析		
<p>各授業については、各教師が1時間1時間を充実した内容になるよう努め、一定の成果を上げた。</p> <p>新型インフルエンザの影響で、例年通りの国際交流教育が危ぶまれたが、常の何倍かの手間を掛け、例年通りの実績を上げた。</p> <p>人権教育にも努め、特に問題は見られなかった。</p> <p>高大連携は例年のものに工夫を加え、上回る成果を得た。</p> <p>地域や中学校との連携や交流は、随分進んだが、更に深める必要がある。</p>		
次年度への改善点		
何れの項目にしろ、満足することなく、普段の努力を続ける必要がある。		

(2) 学習指導の重点

目標： 不足がちな基礎理解力を補い、授業の中で無理なく応用発展力に至る学力をつけさせる。

取組内容(指標)	達成状況	
	中間評価 (10月)	総合評価 (3月)
① 生徒一人ひとりの実態に応じた授業内容を工夫し、学力伸長のため適切な指導を行う。	A	A
② 教材の精選に努め、教科書の内容を補足・発展させた補助教材等を効果的に活用する。	A	A
③ シラバス通りの進捗度を達成する。	B	B
④ 授業への積極的な取り組みを促すため、発問や質問の機会を十分設ける。	A	A
⑤ 放課後の小テストや定期的実施している実力テストの結果から、重点学習項目の精選に努める。	A	A
結果と分析		
③については、各教科・各分野における生徒全体の理解度に違いが見られる場合がある。ただし、課題および補習等で補足しており、進捗度合いには不十分はない。		
次年度への改善点		
生徒の理解力は、毎年々微妙に異なっている。今年度の実践内容に満足することなく、教員間の連携をさらに密にして効果的な教育方法を模索し、実践していくことを常に心がけたい。		

(3) 生活指導の重点

目 標 : 基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、規則を守る精神を育てる。

取組内容(指標)	達成状況	
	中間評価 (10月)	総合評価 (3月)
① 挨拶を奨励し、豊かな人間関係を築くことで、気持ちのよい校風を作り上げる。	A	A
② あらゆる場面において、規律ある態度が取れるように育てる。	B	A
③ 全教職員が協力して生徒指導にあたれるよう、組織的な生活指導体制の充実と、学年や関連分掌との連携を図る。	B	B
④ 毎学期の始業式後の頭髪検査や毎朝登校時の頭髪・服装指導により、高校生としての身だしなみ及び校則を遵守する精神を育てる。	A	B
⑤ 登校時(毎朝)に正門において挨拶の声かけを行い、生徒一人ひとりの表情や様子から、その生徒の抱える問題の早期発見に努める。	B	B
⑥ 遅刻状況を月ごとに集計し、遅刻の多い生徒に対しては、早朝登校や特別指導を行って遅刻を減らすように改善させる。	A	B
⑦ 家庭との連絡や地域との連携を密に取りながら、生徒の問題行動に迅速かつ適確に対処する。	B	B
結果と分析		
<p>登校指導時や校内及び下校時の挨拶は、ほとんどの生徒が良くできていた。また、全体的に規律のある態度も取れている。頭髪と服装においては、一部の生徒に違反も見られたが、それぞれ指導に従って改善された。遅刻指導では、通院や体調不良など理由のある特定生徒と受験を控えた3年生の大遅刻が目立った。緊急時における教職員の連携と協力体制が、十分に取れるかどうかの課題が残る。</p>		
次年度への改善点		
<p>遅刻の多い生徒と、登下校時にスカート丈を極端に短くする一部の生徒に対して、担任を通じて家庭との連絡を密に取り、理解と協力を求めながら生徒の意識を改善していかなければならない。また、全教職員が共通認識のもと、学校組織として協力して生徒指導にあたれるよう、学年や他の分掌との連携をより一層図っていかなければならない。</p>		

(4) 保健管理・指導の重点

目 標 : 生徒の健康観を高め、自主的に健康管理ができる力を養う。

取組内容(指標)	達成状況	
	中間評価 (10月)	総合評価 (3月)
① 健康診断結果を踏まえ個別の保健指導に努める。	A	A
② 身体測定・身体力テスト及び各種健康診断を通して、健康の保持増進について指導する。	B	B
③ 生徒保健委員会活動として健康広報誌「なんこうけんこう」を発行する。	B	B
④ 生徒保健委員会活動として校内美化の呼びかけを行い、実践する。	B	B
⑤ 学校精神保健の一層の活性化を図る。	A	A
⑥ スクールカウンセリングを通じて友人関係や学習の悩み等、問題の早期発見・早期対応に努める。	A	A
結果と分析		
「なんこうけんこう」の発行と校内美化の呼びかけは生徒保健委員会を通じておこなうのが効果的だと思われるが、年間を通して委員会の活動は低調なものとなった。委員会としての集合が4月初めの1回だけだったので、生徒の意識が薄れていったかと思われる。		
次年度への改善点		
生徒保健委員会の一層の活性化を図る。具体的には、集会の回数を増やして、保健関係についての現状での問題点を共有してHRに持ち帰ってもらう。		

(5) 研修の重点

目 標 :	教職員の研修の機会を設け、指導力の向上に努めるとともに、教職員相互の共通理解を深める。
-------	---------------------------------------------

取組内容(指標)	達成状況	
	中間評価 (10月)	総合評価 (3月)
① 研修会の開催に適切な時期、回数を設定する。	B	B
② 画一的な知識の吸収にならないよう、内容を精査する。	B	A
③ 講演会・研修会等研修を通して修得した知識や技術を、生徒指導に活用する。	B	A
結果と分析		
②③については、今年度も「人権」をテーマにした研修会および人権啓発映画の鑑賞等、人権教育担当者の綿密な計画のもと、生徒および教職員双方に効果的な内容を学ぶことができた。		
次年度への改善点		
学科別の講演会や行事等で多忙な学校スケジュールの中で、効果的な研修が可能になるよう時期や内容について今後も検証を重ねる。		

(6) 国際交流教育の重点

目 標 : 生徒一人一人の自主的な国際交流活動への参加を促進し、活動内容の充実に努める

取組内容(指標)	達成状況	
	中間評価 (10月)	総合評価 (3月)
① 校内での国際交流行事を生徒の国際理解・意識の向上に繋げる。	B	A
② 修学旅行・研修旅行の計画・実施を国際理解・意識の向上に有効活用する。	A	A
③ 校外団体主催の国際交流事業を適切かつ有効に活用する。	B	A
④ 校内外への広報活動を活発にする。	B	A
⑤ 留学希望など、多様化する生徒の状況に応じ、担任・保護者と連携して指導の機会を十分に持つ。	A	A
結果と分析		
<p>本年度は新型インフルエンザの影響で、予定されていた校内外で国際交流活動が変更・中止を余儀なくされ、その対応に追われる1年であった。韓国への派遣と修学旅行は無事に予定通り実施され、有意義な研修となったが、中国からの訪問団や中国・オーストラリア派遣は中止となった。研修旅行の実施も危ぶまれたが、姉妹校の理解と協力を得ることができ、日程・旅程変更の末、実地にいたり、さらなる姉妹校との交流関係を深めることができた。以上の変更・中止については担任団と協力し、生徒や保護者への説明を徹底し、理解・協力を得ることに努めた。姉妹校交換留学プログラムについても、多数の教職員の協力により、より充実した留学生対象のカリキュラムを組むことができた。また留学報告会や国流タイムスの発行回数を増やすなど、校内での広報活動も活発に行い、生徒の国際理解意識の向上を図った。</p>		
次年度への改善点		
<p>次年度は姉妹校からの訪問団を受け入れる年度になるので、早期からの広報活動を行い、生徒・保護者への本校の国際交流活動に対する理解協力を広める必要がある。また、姉妹校訪問団の受入れを円滑にするために、計画段階であるアメリカ・アーバンデール校の奇数年訪問、オーストラリア・マウントウェーバリー校の偶数年訪問の実現にむけ交渉を続行する。</p>		

(7) 進路指導の重点

目標： 生徒一人ひとりの進路に応じた適切な指導を推進する。大学進学を柱とした進路指導の充実に努める。

取組内容(指標)	達成状況	
	中間評価 (10月)	総合評価 (3月)
① 各学年に応じた進路意識を高める取り組みを行い、基礎学力を徹底し、組織的な進路指導体制の充実に努める。	A	A
② 全学年に実力テスト、平常補習・長期休業中の補習を実施し、生徒の学力向上に努める。	A	A
③ 個別指導を重視し生徒一人ひとりの進路の実現に繋げる。	B	A
④ 各クラスの担任と連携して、生徒の進路に関する個別相談の機会を多く持つことで進路意識の向上を図る。	B	A
⑤ 生徒に有効な進路情報の提供が行えるよう、進路指導室の資料整理に努める。	B	A
結果と分析		
各学年ともLHRや三者懇談その他進路説明会等を通して、進路意識を高め学力を充実させる取り組みを行ってきた。平常補習や休業中の補習も予定通り行い、大学進学に向けての成果が十分に上がっている。各クラス担任と連携し生徒一人ひとりとの相談にも十分時間を取り、その進路実現に貢献してきた。就職希望者は若干名だが、ハローワーク担当者と連携し、時間をかけた指導を行い、厳しい状況の中ではあるがよい結果を残せた。進路の手引き「南十字星」を2・3年生に配布し、進路情報をわかり易く提供できるよう、生徒や保護者対象の説明会等で効果的に使用した。		
次年度への改善点		
1・2年生の時期に進路に対する意識を深め、基礎学力の更なる充実を目指す。大学進学に関しては安易に推薦入試に依存せず、常に一般入試を念頭に置いた指導体制が必要である。昨今の入試形式の多様化にも対応し、生徒一人ひとりが持つ能力を発揮させられるよう、十分な個別の相談時間を確保し、目的達成のための学習計画と、目標に向かう強い精神力の育成に努める必要がある。		

(8) 図書視聴覚教育の重点

目 標 : 学校図書館の有効な利用と、その機能の活用に務める。視聴覚機器の適切な運用を図る。

取組内容(指標)	達成状況	
	中間評価 (10月)	総合評価 (3月)
① 蔵書のデータベース化を推進するなど、図書館の環境を充実(整頓と美化、蔵書・書架の配置・配架の充実)させる。	B	B
② 図書館の環境を活性化し、ブックトーク、図書館だよりを充実させる。	A	A
③ 他分掌・学年・教科と連携し、生徒の読書に親しむ態度を育成して、読書活動を活性化する。	B	A
④ 図書・放送委員会を活性化し、各行事へ積極的に参加させる。	A	A
⑤ 視聴覚機器の整備・利用の活性化を図り、その運用や貸し出しについて管理を徹底する。	A	A

結果と分析

3学年によるそれぞれのブックトークなどで図書館のしくみ、それにかかわる仕事の理解を深めさせた。
蔵書、書架の充実とともに、国語科と連携した読書感想文の上位入賞など、大きな成果を得た。
新しいプロジェクターの導入により体育館でのプレゼンテーションがより一層充実した。

次年度への改善点

整理のために既存資料の取捨選択を行い、より以上に利用しやすい図書館環境の充実を図る。
体育館の音響効果の更新に伴い、これからの使用上の留意点の工夫と注意徹底が必要である。
体育館の照明装置の修理が必要である。

(9) 特別活動の重点

目 標 : 自主的な活動を促進し、学校生活をより充実したものにする。

取組内容(指標)	達成状況	
	中間評価 (10月)	総合評価 (3月)
① 生徒会活動を本校生徒の学校生活とさらに結びつけ、部活動への援助のほか、各種の行事への取り組みを通じて、校風の向上に努める。	A	A
② 生徒会活動として本校の活動や特徴を地域に発信するとともに、近隣地域の要望や期待を受け止め、地域交流を推進する。	B	B
③ 生徒会活動として他校、他地域、さらには世界との結びつきを深め、学校目標としての国際交流の推進に努める。	C	B
結果と分析		
①文化祭のあと、生徒会は身の回りの問題を地域・世界の視野から考え、関心を広げていった。 ②赤十字募金、ゴミ分別、もちつき大会、卒業生を送る歌と取り組み、それらを「生徒会だより」の発行により広報し、本校生徒全体に共有化するとともに、自分たち自身の問題としてとらえ、考え、学び、成長した。		
次年度への改善点		
①世界との結びつきや国際的視野は校内や地域においてもなしうることをふまえ、今後の活動を展開する。たとえば体育祭、文化祭においても、国際的視野にたった取り組みはできる。 ②地域、世界との交流は現在のところ模索中であるが、本校での学習を基本にして何を発信し、何を受け止めることができるか検討しなければならないことは言うまでもない。		